

第 27 回建設業経理士 1 級原価計算 解答速報

〔第 1 問〕 解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。

問 1

第 1 のプロセスは、各階層の原価管理者の原価責任を明確にし、達成目標としての原価標準を伝達して、動機づけ（モチベーション）を行うことである^{☆★}。第 2 のプロセスは、原価標準が達成されるように実際の業務活動を指導、規制することである[☆]。第 3 のプロセスは、原価標準と原価の実際発生額の差異を算定し、その原因を分析した結果を経営管理者に報告して、原価能率の増進のための措置につなげることである^{☆★}。

問 2

A B C（活動基準原価計算）は、工事間接費をできる限りその発生と関係の深い活動（アクティビティ）に結び付けて[☆]、その活動に集計されたコストを直接的に製品やサービスに賦課していきこうという手法である[☆]。建設業における原価計算では、元来、活動種類ともいえる工事種類別のデータを把握するのが原則であるため、それ自体が A B C の発想ということもできる^{☆☆}。ただ、同じ建設業でも規模や業種は様々で、一概に A B C が効果的だとはいえないが[☆]、工事間接費を多く発生させる企業にとっては、一般的に A B C は効果的であるといえる[☆]。

予想採点基準

☆や★の前の文の内容が正解で加算

☆…2 点×9＝18 点

★…1 点×2＝2 点

〔第2問〕

記号(AまたはB)

1	2	3	4	5
B	A	A	B	B
☆	☆	☆	☆	☆

予想採点基準

☆…2点×5=10点

〔第3問〕

問1

甲工事現場への当月配賦額 ￥ ☆☆☆☆

問2

当月の損料差異 ￥ ☆★ 記号(XまたはY) ☆★

予想採点基準

☆…2点×6=12点

★…1点×2=2点

〔第4問〕

問1

甲製品

第1工程月末仕掛品原価 ￥ ☆★

第1工程当月完成品原価 ￥ ☆

乙製品

第1工程月末仕掛品原価 ￥ ☆

第1工程当月完成品原価 ￥ ☆★

問2

甲製品

第2工程月末仕掛品原価 ￥ ☆

当月完成品原価 ￥ ☆

乙製品

第2工程月末仕掛品原価 ￥ ☆

当月完成品原価 ￥ ☆

予想採点基準

☆…2点×8=16点

★…1点×2=2点

〔第 5 問〕

問 1

完成工事原価報告書			
自 20X1年9月 1日			
至 20X1年9月30日			
		名古屋建設工業株式会社	
		(単位：円)	
I. 材料費		3,183,700	☆☆
II. 労務費		354,100	☆☆
III. 外注費		1,414,700	☆☆
IV. 経費		1,178,600	☆☆
	(うち人件費	701,100) ☆☆
完成工事原価		6,131,100	☆

問 2

¥ 1,580,980 ☆☆

問 3

- | | | | | | | |
|----------------|---|-------|---|-----------|---|---|
| ① P 材料消費価格差異 | ¥ | 2,100 | ☆ | 記号(AまたはB) | A | ☆ |
| ② 運搬車両部門費予算差異 | ¥ | 9,100 | ☆ | 記号(同 上) | A | ☆ |
| ③ 運搬車両部門費操業度差異 | ¥ | 6,900 | ☆ | 記号(同 上) | B | ☆ |

予想採点基準

☆…2点×19=38点